miraco独自調査の中間集計について

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

2019年春の調査の全体像

「当事者の声を見える化しよう！」を目的に４つの調査を実施

SNS

Twitter分析

ハッシュタグ「#保育園落ちた」「#保育園に入りたい」の付いたツイートを抽出

みらこ独自アンケート

- 保活ストーリー：「あなたの保活にまつわるストーリーをお聞かせください」
- 保護者ストーリー：「お子さんが通う保育園についての思いをお聞かせください」
- 保育者アンケート：「子どもたちと未来の保育、そして自身のために、保育の現場から生の声をお聞かせください」

保護者の声

保育者の声

今回から保育者の声を集めるプロジェクトをスタート

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

Twitter分析の結果

「保育園・落ちる」の嘆きに加え、今年秋の「**無償化**」や「**保育士の給料・人員増**」のワードが多く出現

抽出されたツイート数：**7,618**件

ツイートに含まれる単語の関連性を
図示したワードクラウドのイメージ

出現回数ランキング（単位：件）

1位「保育園・認可」8,009
2位「落ちる」5,047
3位「入れる・入る」1,797
4位「待機児童」646
5位「**無償化**」640

共起回数ランキング
「**保育士**」に対して

1位「**給料**」
2位「**無償化**」
3位「**増やす**」

調査概要
・期間：2019年1月1日~2月26日
・抽出条件：Twitter内で「#保育園落ちた」「#保育園に入りたい」の付いたツイートを抽出し、当会にて独自集計

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

保活ストーリーに寄せられた声（1/2）

保育ニーズに見合った保育の量の不足解消への要望、自治体ごとの保育環境の格差や、保活で無理を強いられたことへの不満が多い

そもそも保育園に入りにくい現状を何とかしてほしいという要望

「私は20年近くビジネスパーソンとして働いてまいりましたが、保育園問題を始め、働く女性が活躍しにくい社会であることを子供を持って初めて気づかされ衝撃を受けました。日本の国際競争力にも大きく影響する緊急課題だと実感しております。早急に行政で改善検討して下さい」

「保育園が決まってなければ仕事も決まらない。仕事が決まっていなければ保育園に入れないという負のスパイラル」

「仕事がしたいのに、そのチャンスを与えられないなんて、おかしいと思います。無償にしてほしいなんて思っていません、誰もが平等に保育園に入れる世の中を作ってほしい 」

「働きたい人が働けない世の中を変えるためにも、絶対に入れる保育園の入園の仕組み、保育士さんの待遇改善を望みます。育休延長はただの先伸ばしにか過ぎないです。この苦労をする世代が私たちで終わることを願ってやみません」

「子供がいるから自分の人生諦めるなんて、子供が聞いたらどう思うでしょうか。私はそれを国が主導でやれと言っているよ に自分の保活で感じました。無償化より保育園へ希望者が皆入れる世の中を望みます」

自治体の保育政策によって振り回されることへの不満

「待機児童が少ない町にマンションを買いました。 数千万円の保活でした」

「復職出来ないと思い、引越しを決意。住まい選びに保育環境が影響する状況はどうにかならないものか」

「市区町村ごとに競争率が異なる点も、疑問に感じます。近くの隣の区の保育園に申し込みができないものなのかと思います。市区町村レベルで解決する話ではなく、都道府県単位、国家単位で解決すべき問題と思う」

「共働きではない家庭、パートの方、色々なケースがありそれによって点数をつけられ、僅かな椅子を取り合うゲームのようで虚しいです。なぜここまでしなければならない現状があるのか」

「予算や人員に限りがあり、人口が急増している現状も良くわかりますが、結果が出ていない以上、行政の怠慢だと思わざるを得ません」

「一次申請で落ちた際に相談しに行った役所の窓口で見たお母さんたちの悲痛な姿は忘れることができません」

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

※集計期間：2019年2月5日~2月24日

保活ストーリーに寄せられた声（2/2）

保育園に入るため、無理な働き方や遠い園しか選べなかったことの苦しみ

「保育園に通うため、車を必要とする営業職の正社員へ就職し、車で18分の山の上の保育園に 通うことに。ただ頑張りすぎてしまったようで、結果的には１年後、うつ病と診断されてしまいました」

「認可認証ともにすべて落選。毎日2歳児と往復2時間近くかけてバスと電車で通園」

「もうあんなドキドキしたくないという思いも残っているせいか、二人目を考えることができません」

「早くから努力しても、0歳4月、認可園には入れず。保育園がもっと入りやすければ、0歳4月にこだわらず、1歳になるまで育休をとりたかった！福祉とは、一体何なのでしょう」

「認可・認可外ともに入れず、転居前の自治体の認可園に通う。2歳で転園希望するも加点が付かず認証へ。第二子の産休に入ると、上の子は選考対象外と告げられ2歳で退園。上の子は幼稚園に行くが預かり保育はなく、育休最大3年取得へ延長。キャリアへの不安や子供への対処に悩んだため育児ノイローゼ気味になった」

障害や体調などのハンデがあると、保活でも不利になる仕組みへの不満

「私はADHDとASDを抱えて障害者手帳を所持しておりますが、保留通知が届いてから、毎日ある考えにとりつかれています。 障害者なのだから生まなければよかったのか。上の子に兄弟を 、なんて傲慢だったのか。障害福祉の方でも支援は得られない 。生きていく希望がない。この子と共に命を絶てばいいのか。 と」

「妊娠後期で重い体を引きずりながら見学しました。脳貧血で吐いたり、体調不良を我慢しながらの保活は辛くて怖かったです。それでも赤ちゃんが生まれてから、保活をするよりはマシだと自分に言い聞かせ頑張りました。 何のための産前休暇なのか、理解できません」

「うちの次男はダウン症。週2回の療育の通園に妹は同伴できないため預け先が絶対必要なのに、介護、看護要件には当てはまらず認可には入れませんでした。
障害児の子育ては通院や療育が多く、兄弟はその予定に振り回されます。将来安定した兄弟関係で支えあいができるためにも、障害児の兄弟にも保育園の安定した生活が必要なことに、社会が気づいてください。保育園に入れるように障害児の兄弟にポイントをつけてください！！」

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

保護者ストーリーに寄せられた声

園に感謝しつつも、**保育者の余裕のなさ・スキルに懸念**を感じており、**処遇改善などによるスタッフの充実・定着を要望**する声が寄せられた

ポジティブ

保育園への感謝

- ゆとりのある園で発達障害でもしっかり対応してくれている
- 保護者の悩みや葛藤に寄り添う姿勢でいてくれる
- スタッフの教育や地域の小学校などとの連携にも熱心

保育者・保育園を支えてほしい

- とても満足しているのでこのような保育園が増えるように待遇改善をしてもらいたい
- 待遇改善とＩＴ化で子供と向き合える時間を作れるように
- 保育園があってこそ子育てができる

ネガティブ

保育者の余裕のなさへの懸念

- 保育スタッフの人数がタイトで目が行き届いているのか不安
- 毎年担任が辞めている
- 先生が忙しそうで相談しにくい
- 双方向の意見交換をもっとしたい
- 行事が多い。もっと自由な遊びを

経験・スキルへの不安

- 若い/新任の先生が多い。ベテランもいてほしい
- 先生の入れ替わりが激しく、信頼関係を築き、一緒に子供を育てる感覚を持ちにくい
- 子どもへの注意が早すぎ/短絡的

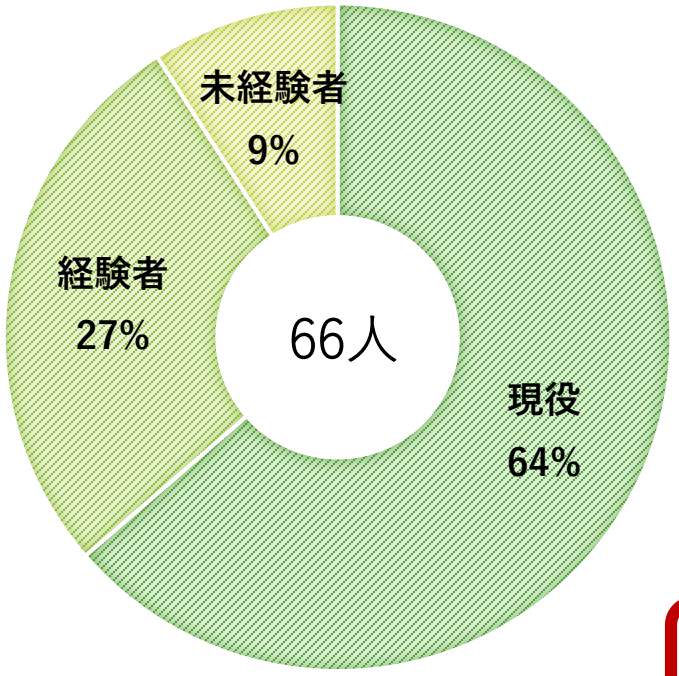
Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

※集計期間：2019年2月5日~2月24日

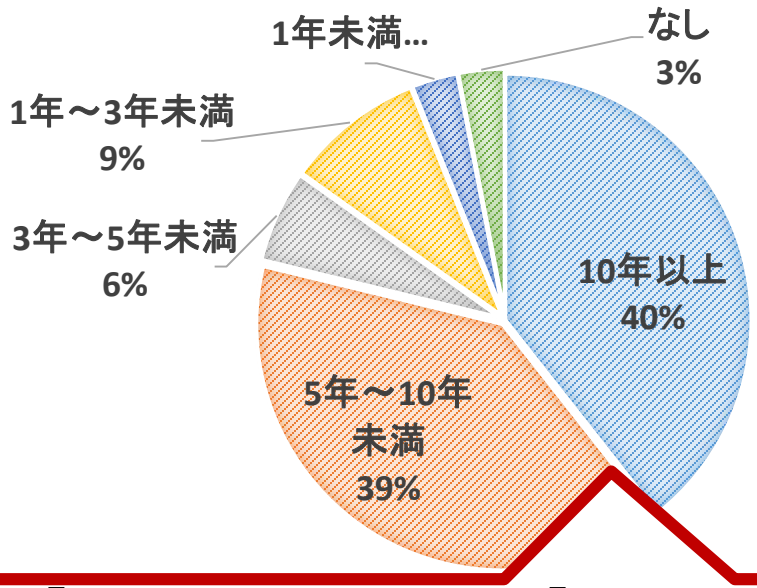
保育者アンケート分析①

- 集計期間：2019年2月5日~2月27日
- 回答数：66人
- 回答者の属性

現在の状況



保育現場の経験年数

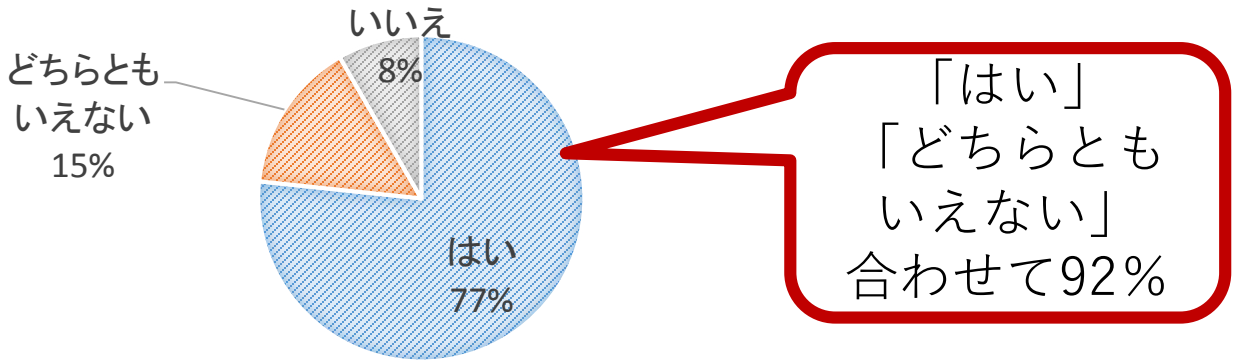


「5年~10年未満」と「10年以上」で合わせて約80%

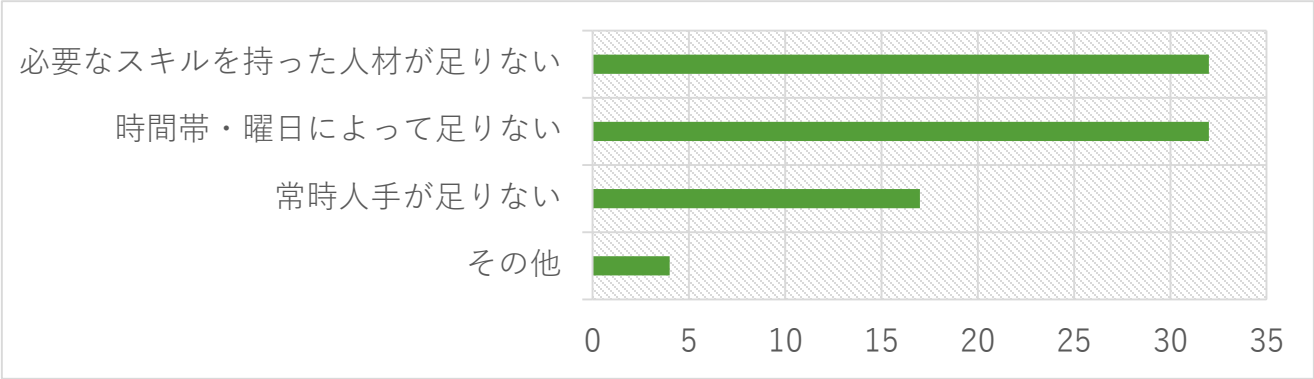
Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

保育者アンケート分析②　人手・人材不足の現状認識

- 「現場の人手が足りない・人材が足りないと感じるときがある（あった）」という質問に、77%が「はい」と回答し、「どちらともいえない」を含めると**92%の回答者がいずれかの場面で、人手・人材不足を感じている**ことが分かった。



- **人手不足を感じる理由**への質問では**「必要なスキルを持った人材がいない」「時間帯・曜日によって人が足りない」**ともに回答が多かった。



Copyright All reserved　©みらい子育て全国ネットワーク

保育者アンケート分析③　人手・人材不足の解消策

- 人手不足を解消する方法については、「保育士（有資格者）の処遇の改善」「スキル・経験に応じた処遇上乗せ」「配置基準（子ども一人に対する職員数）をもっと手厚くする」の回答が上位となり、**資格やスキルに応じた処遇の改善と、より手厚い職員配置を求めている**ことが分かった。併せて**事務・雑務の削減**の必要性を感じている層が多いことも分かった。

Copyright All reserved　©みらい子育て全国ネットワーク

参考

保育者アンケート分析④

離職した理由/保育の仕事に就かない理由

- 離職理由としては、**①業務負担が大きい、①月給や時給単価が低い（以上同数）、③長時間労働**、④休みが取りづらい、⑤人間関係での悩み、の順で回答が多かった。
- 一方、未経験者に「保育現場の仕事に就かない理由」を聞いたところ、**月給・時給単価を理由に上げた回答者はなく**、長時間労働、人間関係、社会的評価が全て同数となった。

48%の回答者がICTを導入済みと答えているにも関わらず、
分析②④の通り、いまだ**人手不足と長時間労働は大きな課題**

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

参考

保育者アンケート分析⑤ ICT導入に思うこと

- ICTの導入に関して思うことを尋ねた質問では、業務改善につながったという意見がある一方、端末数の少なさや機能が限られているなど**導入の仕方**についての課題のほか、「**事務時間がとれない**状況では効率化につながらない」「ICT化だけでなく**作業自体を減らすことが重要**」という指摘が多く上がった。

＜ポジティブ＞
“現金管理不要となり、職員の工数＆負担の一部が軽減された”
“目に見えて分かり、管理しやすい”

＜ネガティブ＞
“導入はされているが、全く活用はされていないように感じる”
“登降園のチェックなどiPadがあるのに台数がなく使えず手書き”
”家にもちかえれないし手書きなら空いてる時間にさっと出来るが子どもが居るところで使えないから時間が取れない“
“パソコンの台数が少ないので無駄に待ち時間ができて時間がかかるから意味がない。”
“不得意な人にとっては、手書き以上に時間がかかるし、パソコンの数が少なすぎたり、使う場所が決められてるので、思うように使えない”
“事務の時間を確保できなければ結局はサービス残業となる”
“パソコンを子どもが居るところで使えないから、やる時間が取れない”
“手書きをIT化するだけでは業務削減の効果はあっても少ない。作成・保管を求められている書類が、本当に必要なものなのか政府を上げて０から見直し、作業項目自体を減らすことが不可欠”

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

参考

保育者アンケート分析⑥　業務負担の軽減策

- 「どうすれば業務の負担を減らすことができると思うか（ICT化を除く）」という問いに対するフリー回答では、**人員配置を厚くし業務分担できる体制にする**こと、また**必要性が低い書類は削減・簡素化すべき**、といった声が多く上がった。

職員を増やし、一人当たりの業務量を軽減する

- 人を増やすことでその分書類の時間を作ることができる、結果残業する必要がなくなり定時で帰ることができる
- 人的配置を多くし、1人当たりの負担を減らす。若手育成の意味も合わせて、現職者のフォローも必要である
- 保育士の処遇を改善し、保育に必要な人数をきちんと確保することで業務の分担ができる
- 配置基準・公定価格見直しなど必要な対策を行い、多様且つ優秀な人材がめざすような仕事に変えていけば、業務の分担ができるようになる
- 有資格者でなくてもやれることは、保育士ではない人材にお願いする

現行の書類や業務をゼロから見直し削減・簡素化する

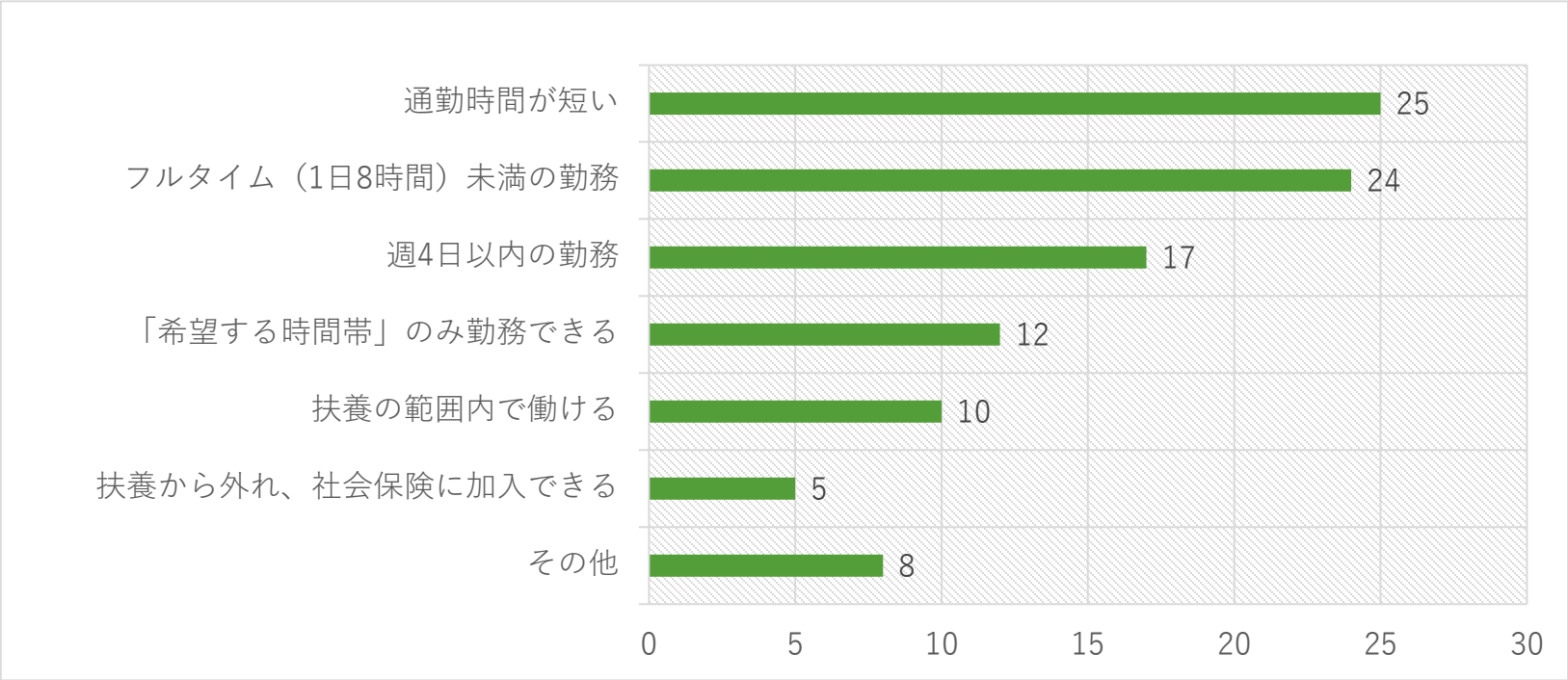
- 業務の一つ一つが子どもを主体とした子どもあってのねらい目的がきちんと意味づけされているか、必要のあるものなのか吟味する
- 子どもを保育していく上で必要とされる書類以外はなしにする
- 毎日ほぼ同じ内容の日誌等はいらないと思います。目立ったことがあるときだけ書けば良いと思います。あれを誰かが見てる感じもなければ子どもの為になっているとも思いません
- 本当に必要な会議、書類に限定する
- 記入書類の簡略化
- すべてを手書きや手間暇をかけることが保育のためと思う考え方を上司が変える

Copyright All reserved　©みらい子育て全国ネットワーク

参考

保育者アンケート分析⑦望む働き方について

- 「家庭やプライベートと両立するために希望する働き方」についての質問では、通勤時間の短さ、フルタイム未満/週4日以内の勤務を希望する回答者が多かった。働きやすく続けやすい職場とするためにも、保育現場においても、**長時間労働となっている現状を改善**し、且つ**多様な勤務時間・日数でも働ける環境づくり**が必要である。



Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

参考

保育者アンケート分析⑧ 保育職の社会的評価を上げるには

- 「どのようなことがあれば保育士・保育職の社会的評価を上げられると思いますか」という設問に対しては、「**給与・賞与の改善**」が最も多く、次いで**国会議員など政策担当者、そして保護者を含めた一般社会における「『保育職』の専門性や業務負担への適切な理解促進**」が上がった。

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク

まとめと今後の検討課題

Twitterや保活ストーリーに寄せられた声からも、依然として保育の受け皿は足りておらず、引き続き、希望するみんなが保育園を利用できるよう、**地域ごとの保育ニーズに見合った「量」**の整備が必要である。

同時に、保護者は、保育スタッフの余裕のなさやスキル・経験への懸念も抱いており、量と質の確保のため、**保護者としても「保育士の給料・人員増」へ予算増額してほしい**との声が高まっている。

保育現場からの声では、経験者の**9割以上が人手不足**を感じ、別途実施した保育士座談会でも、人手不足が職員間のコミュニケーションや保育内容にも悪影響を与えている可能性が示された。
離職原因の上位である、長時間労働・業務負荷の高さの解消のためには、**資格やスキルに応じた処遇改善**とともに**多様な働き方を選択しやすい環境**を作り、人手不足を解消し業務分担できる体制にすること、ICT化と並行して**業務自体の簡素化**を進めることを同時に進める必要がある。

処遇改善/配置基準/業務の中身を早急に見直す必要があるのでは

Copyright All reserved ©みらい子育て全国ネットワーク